

19. 無鈎條蟲に因る蟲垂炎

東京女子醫學専門學校外科教室

曾我部惠美子

蟲垂炎は周知の通り多い疾患であつて吾外科に於ても入院患者の 33% は蟲垂炎である。

而して其の切除蟲垂に就て其の内容を検査して見ると普通見られるものは糞石、糞塊、膿であるが、時には寄生蟲を容れてゐることがある。此の寄生蟲としては蛔蟲、鞭蟲等が最も屢々遭遇するものであるが條蟲を内容とすることは甚だ稀である。

余等は條蟲による蟲垂炎の一例を経験したので報告する。

20 歳の半島人。學生。今年上京。

5 日以來中等度の右下腹部疼痛と嘔氣あり。來院した時は全身状態に特別な事なく、體溫 37.0°C。薄き舌苔あり、マツクバーネ氏點にて壓痛著明、白血球 13200。急性蟲垂炎の診斷で即日手術。手術後切除蟲垂を切割して見ると帶狀の寄生蟲様のものの存在するを認め、之を取出して食鹽水の中に入れると盛に運動してゐた。之を寄生蟲教室で検査してもらつたところ無鈎狀蟲の一節であるとのことであつた。

尚蟲垂其のものの病變は著明ではないが其の粘膜に於て條蟲の存在した中心部と末柱部に帶狀の發赤腫張した炎症像を認めた。

手術後経過は良好、條蟲の驅除をすゝめたが其の爲めに入院日數の延びるのを欲せず 13 日目退院。

尚寄生蟲による蟲垂炎を統計的に觀察し其の結果について述べやうと思ふ。

追 加

本 間 ム ツ

22 歳女子、數年前より廻盲部の腹痛月一回訴ふ。檢便の結果蛔蟲卵發見、驅蟲により爾後腹痛を訴えず。

20. 乳腺に於ける纖維腺腫に就て

東京女子醫學専門學校外科教室

今 田 幸 子

乳腺に於ける纖維腺腫は屢々 20 歳—30 歳前後の女性に好發する良性腫瘍なり。

當外科において本年 2 例を経験せるを以てここに報告せんとす。

第 1 例。20 歳の女子。3 年前より左側乳腺外上部に腫瘍を認め、爾來運動時壓重感あるも放置したるに多少増大し剔出により腺管周圍に發生せる纖維腺腫なることを認め、術後 3 日目退院、14 日目全治せるものなり。

第 2 例。26 歳の女性。約 3 年前より左側乳腺下部に腫瘍を觸知し、漸時増大外部より明らかに看破されるに至り、乳腺の約半分を占め不規則な形を有し硬き凸凹のある腫瘤にして、移動性あり、且腋窩淋巴腺腫脹を伴へる囊性纖維腺腫にして 8 日目全治退院せるものなり。本腫瘍は固より良性腫瘍なるも、其存在自身が種々の障碍の因をなすのみならず、肉腫性或癌性に變化し得るものなるを以て早期に之を剔出するを要す。演者は更に組織學的考察を試みんとす。